令和３年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和３年３月７日
函館市立椴法華中学校

1　本年度の重点教育目標

「夢や希望をもち、ねばり強く、自らを高めようとする生徒の育成」

2　本年度の取組の重点

(１) 求められる資質・能力の定着と向上を目指す取組の推進
(２) 社会的な自立を実現する教育活動の展開
(３) ９年間の学びと育ちを支える小中連携の充実と深化
(４) 保護者や地域と一体となった学校づくりの取組
(５) 学校のさらなる小規模化への対応

3　自己評価結果に対する学校関係者評価

分　野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善方策の評価	主な意見(改善策など)
(1) 求められる資質・能力の定着と向上を目指す取組の推進	基礎的・基本的な内容、技能の確実な習得を図る	a	生徒の実態に応じ、生徒によりそった指導により、一層の基礎基本の定着を図っていく。	A	A	
	生徒の実態に応じた多様できめ細かな支援の充実を図る	a	生徒一人一人の特性を把握した指導により、主体的に学習に取り組む姿勢を培っている。	A	A	
	各教科の見方・考え方を働かせる質の高い授業の充実を図る	a	生徒一人一人の実態に沿い､生徒に寄り添いながら､主体的に取り組む授業への改善を図る。	A	A	
	家庭学習の習慣化について、その指導の充実を図る	a	家庭学習の習慣化に向けて、生徒の特性を理解し、個にそった家庭学習の充実を図っていく。	A	A	
	学習指導要領が示す授業改善に資する校内外での研修の充実を図る	a	基礎基本の定着を目指し、校内研修を通じて指導法の工夫改善を図る。校外研修にも積極的な参加を促す。	A	A	
(2) 社会的な自立を実現する教育活動の展開	社会で求められる基本的な生活習慣や規範意識向上の指導の充実を図る	a	日常から充実した指導が行われている。今後も生徒一人一人に寄り添った生徒指導を展開する。	A	A	
	命の大切さや自らの生き方を前向きに考える教育活動の充実を図る	a	来年度以降も道徳教育を一層進めるとともに、安全教育やがん教育の充実も図る。	A	A	
	互いに認め合い支え合う豊かな人間関係づくりを高める指導の充実を図る	a	自己肯定感を高める積極的生徒指導の一層の充実を図り、共感的人間関係の更なる構築を図っていく。	A	A	
	今日的な課題に柔軟に対応できる生徒指導体制の確立を図る	a	生徒一人一人に寄り添った細やかな指導と相談体制の充実により、いじめや不登校等、今日的な課題に対応できる組織的対応の充実を図る。	A	A	・生徒一人一人に寄り添って粘り強く、これからも対応していただきたい。

(3) ９年間の学びと育ちを支える小中連携の充実と深化	情報連携、行動連携など、交流や研修をもとに小中の円滑な接続を図る	a	日常からの連携や交流、合同研修などにより、円滑な接続ができている。一層の充実を図っていく。	A	A	
	豊かな心を育成するために、小中連携して教育活動の工夫・改善を図る	b	児童生徒数の減少に対応できる持続可能な教育活動の工夫・改善に連携して取り組むことができた。	A	A	
	学びの連続性をめざし、小中連携して望ましい学習習慣の確立を図る	a	これまでの取組を継続するとともに、学習習慣の一層の確立を目指して、連携を深めていく。	A	A	
	資質・能力の育成に向けた９年間を見通した教育課程の改善・充実を図る	b	９年間を見通した教育課程や学習のきまりなどの連携を土台に再確認を行い、今後も継続して取り組む。	A	A	
(4) 保護者や地域と一体となった学校づくりの取組	保護者や地域住民へ本校教育活動の積極的な公開と発信に努める	a	卒業生を講師とした教育活動、地域公開、ホームページ等を通じて情報の発信に努めた。	A	A	
	教育活動への保護者の参加・協力を促す持続可能な体制の構築を図る	b	十分な活動ができなかった。今後は持続可能な連携・協力のあり方を検討し、活動の充実を図っていく。	A	A	・まる２年コロナ禍によりこれまで通り参加できなかった。
	学校運営協議会制度を活用して教育活動の改善・充実を図る	b	今年度も学校運営への理解と協力を得ることができた。より一層連携を深め、協力体制の確立を図っていく。	A	B	
(5) 学校のさらなる小規模化への対応	０ベースで学校組織及び教育計画全体を見直し、再構築を行う。	a	学習内容や行事、その他の活動について１年間機会があるごとに検討を重ねた。来年度へ向けて、ある程度教育活動の再構築を図ることができた。	A	A	・超小規模校で学校運営がこれまで通りいかないことと思いますが、生徒や保護者が望む学校行事ができるよう工夫して進めていくことを望みます。

■　自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた　（８割以上）
b	概ね達成できた　（６割以上）
c	十分ではない　　（４割以上）
d	達成できなかった（４割未満）

■　自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり，取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが，若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが，若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。